

胃切除後の肩こり 延年半夏湯が有効

Q 六十二歳、男性。四年前に胃がんのため胃を三分の二取りました。再発の心配はないといわれていますが、食後に胸やけ・肩こりがひどく、特に左の肩が下へ引つ張られるように重苦しくなります。漢方に何かよい治療はありますか。

A 胃切除後の不定愁訴でつらい思いをしている人は実に多い。胸やけ、ヒリヒリする胸部の痛み、腹部膨満感、げっぷ、みずおちの詰まる感じ、便秘や下痢、体重減少、貧血などさまざまな症状がある。質問者のように頑固な肩こりや背中全体の不快に悩むケースも少なくない。私の患者にも「毎日、猫のように柱に肩をゴリゴリとこすりつけないとおさまらない」と訴える人がいる。

このような胃切除後の後遺症にも漢方薬が比較的奏効する例が多いことは一般に知られていない。強い肩こりは古典の痙癆（けんぺき）ととらえて延年半夏湯（えんねはんげとう）を服用するとよい。痙癆とは胃症状を伴う背中や肩の強いこわばりをいう。もちろん古典に胃切除後の記載はないが、みずおちを押さえると不快や圧痛を認め、下半身とくに足の冷えるタイプの頑固な肩こりによい。

胸やけがひどく、げっぷの出る人には茯苓飲合半夏厚朴湯（ぶくりょういんごうはんげこうぼくとう）、食べ物が胃に落ちていかないという人は利膈湯（りかくとう）や六君子湯（りっくんしとう）がよい。このように、胃切除後の不定愁訴に漢方薬は有用である。